

【 九 重 町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

■教科の正答率

教科の正答率は、全国平均正答率と比較して、－0.9 ポイントであった。

■区分・領域別正答率

区分・領域別の正答率は、「情報の扱い方に関する事項」が＋10.8 ポイントと非常に高い値となったが、その他の区分・領域はすべて全国平均正答率を下回っており、習得状況にアンバランスが生じている。なかでも、「書くこと」の領域が全国比－6.4 ポイントとなっており課題である。

■正答数度数分布

正答数度数分布をみると、正答数 8 問と 9 問の割合が全国・県の平均よりも高くなっている反面、正答数 4 問の割合が全国・県の平均よりも極端に高くなっていることから、低学力層が一定数いることが分かる。

■平均無答率（問題総数に占める無回答数の割合）

問題総数に占める無答数の割合は、2.2%となっており、令和元年度調査以降で最も低くなった。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- 各学校における課題分析に基づく検証・改善に向け、町教委として以下の指導・支援を行う。
- ここのえ学園基本計画に基づく「学習のきまり」・「生活のきまり」について、各種研修会等で周知・徹底を図る。
- いじめ・不登校対策の徹底と人権教育の充実による安心・安全な学習環境づくりのための研修等を実施する。
- 学習に課題を抱える児童の「個別の指導計画」や「学習状況個人カルテ」の作成と活用を推進する。
- 「自立した学習者」の具体像を全職員で共有できるように、全ての学校に対し指導・助言を行う。
- ICT(AIドリル)等を活用した個に応じた指導ができるよう、環境整備を推進する。
- 授業と家庭学習をつなぐ「学習サイクル」の確立を図る。
- 「書くこと」の課題克服のため、授業に「目的に応じて自分の考えを書く活動」を位置づけるための指導・助言を行う。その際、ICT にすべて依存することなく、ノートやプリントに筆記用具を使って書くといった視点も意識して指導・助言にあたる。
- 本町が推進している「協調学習」による授業改善に向け、指導主事を派遣しての授業づくり支援を全ての学校において実施する。

【 九 重 町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

■教科の正答率

教科の正答率は、全国平均正答率と比較して、+1.6 ポイントであった。

■区分・領域別正答率

区分・領域別の正答率は、「変化と関係」が全国比－6.1 ポイントとなっており課題が見られるが、その他の区分・領域はすべて全国平均正答率を上回っている。

■正答数度数分布

正答数度数分布をみると、正答数 10 問と 12 問の割合が全国・県の平均よりも非常に高くなっている反面、正答数 5 問の割合が全国・県の平均よりも高くなっていることから、低学力層が一定数いることが分かる。

■平均無答率（問題総数に占める無回答数の割合）

問題総数に占める無答数の割合は、2.1%となっており、令和元年度調査以降で最も低くなった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- 各学校における課題分析に基づく検証・改善に向け、町教委として以下の指導・支援を行う。
- ここのえ学園基本計画に基づく「学習のきまり」・「生活のきまり」について、各種研修会等で周知・徹底を図る。
- いじめ・不登校対策の徹底と人権教育の充実による安心・安全な学習環境づくりのための研修等を実施する。
- 学習に課題を抱える児童の「個別の指導計画」や「学習状況個人カルテ」の作成と活用を推進する。
- 「自立した学習者」の具体像を全職員で共有できるように、全ての学校に対し指導・助言を行う。
- ICT(AIドリル)等を活用した個に応じた指導ができるよう、環境整備を推進する。
- 授業と家庭学習をつなぐ「学習サイクル」の確立を図る。
- 「変化と関係」の課題克服のため、授業に「日常生活や社会の事象と結びつけた問題解決」を位置づけたリ、「言葉や式で説明する」アウトプットの時間を確保したりする場面を保障するための指導・助言を行う。
- 本町が推進している「協調学習」による授業改善に向け、指導主事を派遣しての授業づくり支援を全ての学校において実施する。

【 九 重 町 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

■教科の正答率

教科の正答率は、全国平均正答率と比較して、+2.1 ポイントであった。

■区分・領域別正答率

区分・領域別の正答率は、「情報の扱い方に関する事項」が全国比－4.2 ポイント、「読むこと」が全国比－0.2 ポイントとなっており課題が見られるが、その他の区分・領域はすべて全国平均正答率を上回っている。

■正答数度数分布

正答数度数分布をみると、正答数 11 問以上の割合が全国・県の平均に比べ非常に高くなっているが、正答数 5 問の割合が全国・県の平均よりも高くなっており、低学力層が一定数いることが分かる。

■平均無答率（問題総数に占める無回答数の割合）

問題総数に占める無答数の割合は、3.7%となっており、令和 7 年度の調査と同等であった。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

●各学校における課題分析に基づく検証・改善に向け、町教委として以下の指導・支援を行う。

□ここのえ学園基本計画に基づく「学習のきまり」・「生活のきまり」について、各種研修会等で周知・徹底を図る。

□いじめ・不登校対策の徹底と人権教育の充実による安心・安全な学習環境づくりのための研修等を実施する。

□学習に課題を抱える児童の「個別の指導計画」や「学習状況個人カルテ」の作成と活用を推進する。

□「自立した学習者」の具体像を全職員で共有できるように、全ての学校に対し指導・助言を行う。

□ICT(AIドリル)等を活用した個に応じた指導ができるよう、環境整備を推進する。

□授業と家庭学習をつなぐ「学習サイクル」の確立を図る。

□「情報の扱い方に関する事項」の課題克服のため、「原因と結果、中心と全体、事実と意見の区別」等について、様々なものの見方・考え方を働かせながら「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」活動を授業に位置付けるための指導・助言を行う。

□本町が推進している「協調学習」による授業改善に向け、指導主事を派遣しての授業づくり支援を全ての学校において実施する。

【 九 重 町 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

■教科の正答率

教科の正答率は、全国平均正答率と比較して、+2.0 ポイントであった。

■区分・領域別正答率

区分・領域別の正答率は、「図形」が全国比－1.4 ポイントとなっており課題が見られるが、その他の区分・領域はすべて全国平均正答率を上回っている。

■正答数度数分布

正答数度数分布をみると、正答数8問以上の割合が全国・県の平均に比べ高くなっているが、正答数 2 問以下の割合が10%以上あり、低学力層が一定数いることが分かる。

■平均無答率（問題総数に占める無回答数の割合）

問題総数に占める無答数の割合は、10.4%となっており、令和 6 年度調査に次いで 2 番目に高くなった。（令和 7 年度調査は 3.9%）

2 具体的な改善方策

中学校：数学

●各学校における課題分析に基づく検証・改善に向け、町教委として以下の指導・支援を行う。

□こここのえ学園基本計画に基づく「学習のきまり」・「生活のきまり」について、各種研修会等で周知・徹底を図る。

□いじめ・不登校対策の徹底と人権教育の充実による安心・安全な学習環境づくりのための研修等を実施する。

□学習に課題を抱える児童の「個別の指導計画」や「学習状況個人カルテ」の作成と活用を推進する。

□「自立した学習者」の具体像を全職員で共有できるように、全ての学校に対し指導・助言を行う。

□ICT(AIドリル)等を活用した個に応じた指導ができるよう、環境整備を推進する。

□授業と家庭学習をつなぐ「学習サイクル」の確立を図る。

□「図形」の課題克服のため、文章読解力・数学で用いる用語の理解・数学的な表現方法を身に付けさせるとともに、「日常生活や社会の事象と結びつけた問題解決」の視点を位置づけた授業づくりのための指導・助言を行う。

□本町が推進している「協調学習」による授業改善に向け、指導主事を派遣しての授業づくり支援を全ての学校において実施する。

【 九 重 町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析

中学校：英語

■教科の正答率

教科の IRT スコアは、全国平均スコアと比較して、+1.0 ポイントであった。

■区分・領域別平均正答数

区分・領域別の平均正答数は、「聞くこと」が 1.1/2(全国 1.2/2)となっており全国平均を下回ったが、「読むこと・書くこと」は 2.9/5(全国 2.5/5)となっており全国平均を上回っている。

■IRT バンド分布

IRT バンド分布をみると、バンド3と4に属する割合が全国・県の平均に比べ高くなっているが、バンド5の割合は全国・県よりも低くなっている。

■平均無答率(問題総数に占める無回答数の割合)

問題総数に占める無答数の割合は、3.6%となっており、全国に比べ若干高い結果となった。

2 具体的な改善方策

中学校：英語

- 各学校における課題分析に基づく検証・改善に向け、町教委として以下の指導・支援を行う。
- このえ学園基本計画に基づく「学習のきまり」・「生活のきまり」について、各種研修会等で周知・徹底を図る。
- いじめ・不登校対策の徹底と人権教育の充実による安心・安全な学習環境づくりのための研修等を実施する。
- 学習に課題を抱える児童の「個別の指導計画」や「学習状況個人カルテ」の作成と活用を推進する。
- 「自立した学習者」の具体像を全職員で共有できるように、全ての学校に対し指導・助言を行う。
- ICT(AIドリル)等を活用した個に応じた指導ができるよう、環境整備を推進する。
- 英語を学ぶ意欲を喚起するため、英検受験に対する検定料補助や国際交流事業に係る費用(台湾姉妹校訪問等)の補助、町独自のイングリッシュ・デイ・キャンプの企画・運営を実施する。
- 授業と家庭学習をつなぐ「学習サイクル」の確立を図る。
- 「聞くこと」の課題克服のため、視覚的な情報がない条件下においても、音声で聞いた内容を正しく整理して順序立てたり、紛らわしい複数の情報の中から根拠となる部分を見極め、正しく判断・選択したりする力を育成する視点を位置づけた授業づくりのための指導・助言を行う。
- 本町が推進している「協調学習」による授業改善に向け、指導主事を派遣しての授業づくり支援を全ての学校において実施する。

【 九 重 町 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

1 調査結果の概要

児童質問調査

【肯定率が全国値よりも+5 ポイント以上の主な項目】

- ☐ 将来の夢や目標を持っていますか・・・90.1(+8.1)
- ☐ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか・・・90.2(+7.4)
- ☐ 先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか・・・100(+8.6) *2 年連続100%
- ☐ 学校に行くのは楽しいと思いますか・・・91.8(+6.1)
- ☐ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか・・・91.8(+11.7)
- ☐ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思いますか・・・88.5(+8.6)
- ☐ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか・・・96.7(+9.7)
- ☐ 国語の勉強は好きですか・・・65.6(+8.2)
- ☐ 国語の勉強は得意ですか・・・67.2(+6.8)
- ☐ 国語の授業の内容はよく分かりますか・・・91.8(+10.3)
- ☐ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか・・・98.4(+8.0)
- ☐ 算数の勉強は好きですか・・・65.6(+8.0)
- ☐ 英語の勉強は好きですか・・・88.5(+21.8)
- ☐ 英語の勉強は得意ですか・・・68.8(+9.0)
- ☐ 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか・・・59.0(+13.6)
- ☐ 5年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか・・・86.8(+9.2)
- ☐ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか・・・91.8(+6.1)

【肯定率が全国値よりも－5 ポイント以上の主な項目】

- ▲5 年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT をどの程度使用しましたか(週 3 回以上)・・・60.7(－8.1)

【家庭学習時間の傾向】

- ▲平日の家庭学習時間 1 時間未満の割合・・・50.8%(33/65人)

生徒質問調査

【肯定率が全国値よりも+5 ポイント以上の主な項目】

- ☐先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか・・・96.8(+5.9)
- ☐学校に行くのは楽しいと思いますか・・・91.9(+6.5)
- ☐2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICTをどの程度使用しましたか(週3回以上)
・・・93.5(+15.3)
- ☐総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか・・・90.3(+9.5)
- ☐道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか・・・96.8(+5.5)
- ☐国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか・・・95.1(+6.9)
- ☐数学の勉強は好きですか・・・61.3(+5.2)
- ☐数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか・・・82.3(+5.8)
- ☐英語の勉強は好きですか・・・66.2(+15.0)
- ☐英語の勉強は得意ですか・・・51.6(+12.1)
- ☐英語の授業の内容はよく分かりますか・・・69.3(+5.1)
- ☐2年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
・・・85.5(+6.7)
- ☐1・2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか・・・70.9(+5.4)
- ☐学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか・・・93.6(+6.6)

【肯定率が全国値よりも-5 ポイント以上の主な項目】

- ▲自分には、よいところがあると思いますか・・・79.0(-5.0)
- ▲将来の夢や目標を持っていますか・・・54.8(-12.8)
- ▲毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか・・・72.6(-7.9)

【家庭学習時間の傾向】

- ▲平日の家庭学習時間1時間未満の割合・・・22.6%(14/65人)

2 九重町の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

【重点的取組事項】

- 家庭学習の質・量・時間をブラッシュアップ〔家庭との連携〕
- ICT(Chromebook)の効果的な活用〔リアル×デジタルの最適化〕
- 夢や目標を抱くことができるキャリア教育の充実〔地域との連携〕

【全校で取り組むこと】

- 小学校「算数」、中学校「国語」の愛好度を向上させるため、「分かった」と「できた」を実感できる授業づくり＝「協調学習」による対話に基づく学びの積み重ね
- 基本的生活習慣及び学習習慣の確立
- 教科の学びと社会のつながりを感じる授業＝「日常生活や社会の事象と結びつけた問題解決」の視点を位置づけた授業づくり



【成果】

「このえ学園基本計画」に位置付けられている「このえ学」では、児童生徒の発達段階に応じた系統的な学びが実現できている。また、本町は「対話」に基づく授業づくりのため、「協調学習」の手法を用いた授業実践と研究に長年取り組んできた。話し合いや、資料を用いた発表に関する項目の肯定率が良好なのは、「このえ学園」及び「協調学習」の取組の成果である。

【課題】

小学校においては、日常的な Chromebook 端末の使用頻度が低い傾向がみられる。授業のすべてをデジタル化する必要はないが、児童の学びを支える効果的なツールとしての活用頻度を向上させることが望ましい。また、担任によって端末を児童に使用させる頻度に差が生じないよう、ICT 支援員による授業支援・教員支援を効果的に活用することも必要である。

中学校においては、「将来の夢や目標を持っている」生徒が半数ほどしかおらず、全国比－12.8ポイントと非常に低い傾向にある。小学6年時(77.2)から、中学3年時(54.8)と大きく低下していることから、自分の「好き」や「心地よさ」といった自己理解を深め、多くの新しい経験に触れる機会を設定することが必要である。また、「自分にはよいところがある」の肯定率も全国と比べて低いため、小さな成功体験を積み重ねるとともに、それに対する教員(場合によっては家庭地域の大人)による適切な評価・価値づけを行い、自信をもって「自分」を表現できる生徒の育成をめざすことも大切である。

【 九 重 町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問調査

- ☐就学援助を受けている児童の割合が高い
- ☐SC や SSW による教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる学校体制の構築が必要
- ☐学習指導における児童一人一人に応じた学習課題や活動の工夫が必要
- ☐児童に対して、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組が必要
- ☐英語の授業以外にも児童が英語に触れる機会の設定が必要
- ☐家庭学習の課題として、児童に PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の学習に取り組ませる機会の設定が必要
- ☐児童が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどの ICT 機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会の設定が必要
- ☐調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたかの質問結果が児童の結果と乖離している
- ☐児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしていない学校があるため、家庭での活用を促進することが必要（2/6校）
- ☐各調査項目については、肯定的な回答が多いが、最高評価の割合は高くない
- ☐小学校は設置が6校しかないため、1 校の回答で割合が大きく変動することから、一概に割合のみで比較・検証を行うことはできないため、各学校の実情に応じた支援を行う

中学校：学校質問調査

- ☐就学援助を受けている生徒の割合が高い
- ☐近視予防や読書・ICT 機器の使用への配慮が必要
- ☐授業に、生徒自身が学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動の設定が必要
- ☐授業に、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動の設定が必要
- ☐教科での学びを、様々な課題の解決に生かしたり、授業に地域や社会で起こっている問題や出来事を題材として設定したりすることが必要
- ☐英語による対話や発表、即興的なスピーチなどの活動の設定が必要
- ☐家庭学習の課題として、生徒に PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の学習に取り組ませる機会の設定が必要

中学校：学校質問調査（つづき）

- 生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器の使用頻度が低い
- 各調査項目については、肯定的な回答が多いが、最高評価の割合はそれほど高くはない
- ICT 機器の活用について、生徒の結果と学校の結果に乖離がある

2 九重町の学校質問調査の結果をふまえて

【今後の取組】

□研修体制

- ➡従前の集合研修の充実を図るとともに、指導主事による学校訪問研修の機会を増やし、学校の実情に応じたきめ細かな指導・支援を行う
- ➡全員参加（町雇用会計年度任用職員を含む）の研修において、町が推進する重点事項の周知・徹底を図る
- ➡新採用職員及び新規転入職員対象の研修会に、「このえ学園基本計画」・「人権教育」・「協調学習」の項目を必ず位置づけ、町が推進する主要な取組に関する理解の促進を図る

□Chromebook や生成 AI 等の効果的な活用の推進

- ➡ICT 支援員による授業支援及び研修の充実を図る
- ➡ICT 支援員の配置時間を確保し、教員の個別の困りや悩みに対応する
- ➡Chromebook の家庭学習での活用を促進するため、AI ドリル等の活用研修を実施する

□学校における指導力向上

- ➡若年教職員（経験年数の浅い教職員）に対する支援体制の構築に関する指導・支援を実施する
- ➡学校における OJT を充実させるための指導・支援を実施する
- ➡大分県教育委員会・日田教育事務所・九重町教育委員会の重点方針等について、共通理解を徹底し、組織的な授業改善を推進する

□学校・家庭・地域の協働

- ➡学校運営協議会（学校運営会議）を機能させ、保護者や地域住民の学校運営への参画を推進する（教育委員会による参画）
- ➡このえ学園基本計画に「地域リソース集」を位置づけ、地域との連携を促進する

□教職員の働き方改革の推進/子どもと向き合う時間の確保

- ➡「九重町立小中学校教育職員に関する業務量管理と健康確保措置実施計画」の確実な運用及び取組の検証・改善を行う
- ➡教職員の時間外在校等時間を把握し、適切な業務量となるよう指導・支援を行う
- ➡令和8年9月からの休日部活動の原則廃止・地域クラブ活動への展開を推進する